

■児童・生徒の学力の状況

漢字や計算などの基礎的・基本的な内容について概ね理解している児童が多いが、図形の性質や数の概念の理解、問題文の読み取りなどの領域において、どの学年でも学力の2極化傾向が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 学習のねらいを明確にし、児童の習熟度に合わせた指導・評価・支援の一体化を図る。
- 個別学習の充実と、協働学習の成立に向け、児童の意欲が高まり、主体的に取り組むことのできる問題解決的な学習を軸とした授業づくりを行う。
- 言語活動の充実を図る。
- ICT機器のさらなる活用方法を図る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ・「理科」を4学年以上で専科とし、RSの「推論」「イメージ同定」「具体例同定」の能力の育成を図る。加えて、高学年教科担任制の取組として、学年担任制を活かした学年内での交換授業等を取り入れ、中学校の教科担任制との接続を円滑にする。
- ・フィードバック学習教材や東京ベーシック・ドリルを活用し、「朝学習の時間」での「学力向上推進週間（2回）」や放課後補習教室（不定期）、夏季学習教室（4回）を設定することで基礎・基本の学力の向上を図る。
- ・「朝の活動の時間（15分間）」の読書活動や習熟の時間、「食後10分間読書」の時間を設定し、国語に対する関心の向上や言語活動の充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決（ペア・グループでのOUTPUT）→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○6つの基礎的読解力の明確な視点を持ち教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTを、めあて及び授業の流れに設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を多く設定する。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるよう意識して取り組ませ、総合的な学習の時間の探究的活動をより教科横断的な学習として充実させる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○校内研究において、算数科を重点に「読み解く力」の育成を図る。 ○生活科、総合的な学習の時間、社会科、特別な教科道徳を中心に、郷土板橋を愛する心を養うために、地域の伝統文化や行事にふれる機会を設定し、地域の一員としての意識の向上を図る。さらに、iCS・学校支援地域本部を活用し、地域の人材を活用した学習活動や児童と地域の人が共に学ぶ活動を積極的に取り入れていく。	○総合的な学習の時間を中心とし、他の教科との合科で30時間程度の単元を計画・実施する。 ○各教科、特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科道徳との関連性を図った指導を行い、年間指導計画へ盛り込めるよう進める。	○一人一台端末の「ドリルパーク」のAI学習を活用し、個別最適な学びを実現する。「オクリンク」等を活用して協働的な学びを実現する。 ○ICT支援員と連携し、月1回、GIGA委員会主催の校内研修会を実施し、全教職員のスキルアップ、学習への活用の幅を広げることで、ICT環境の充実を図る。